

知的障害夫婦 施設で子育て

長女が来月、小学生に

4月から小学生の土 向ける両親にうれしそ ープホーム(GH)。
屋はるかさん(6)は真 うな笑顔を見せた。富 はしゃく長女の姿に父
新しいピンクのランド 岡市の社会福祉法人 正己さん(41)と母幸子
セルを背に、カメラを 「水土舎」運営のグル さん(36)の顔もほころ



グループホームで暮らし(左から)土屋正己さん、長女はるかさん、妻の幸子さん―富岡市で

富岡のグループホーム 世話人が手厚く支援

ふ。2人には軽度の知的障害がある。結婚し、子育てをする障害者は少ない中、支援を受けて家庭を築いている。

富岡市の食品会社で知り合い結婚。7年前にはるかさんが生まれた。2人を支援する水土舎代表の金谷透さん(72)は「小さい頃はよく熟を出して大変だったけど、すくすく育ってくれた」と振り返る。

「子供を産みたい」。金谷さんが就職支援で知り合った正己さんから相談を受けたのは2012年秋。幸子さんは妊娠9週間だった。周囲は出産に反対したが、2人の決意は固かった。金谷さんは水土舎の職員を集めて何度も協議。GHに入居し、世話人が全面的に子育てをサポートすることになった。2人の家族の了解を得た。食事、入浴、急病時の対応……。保育園に預けるまでの1年半、朝昼晩と世話人が交代し、24時間の支援態勢を組んだ。

結婚後は収入計算、金銭管理にも取り組んだ。正己さんと幸子さんは現在の特別支援学校中等部を卒業後に就職。家計は苦しかった。「療育手帳」の交付も受けておらず、公的な支援もなかった。結婚を機に、療育手帳と障害基礎年金を申請することで、子育てに必要な援助を確保した。

厚生労働省の調査(16年)によると、65歳未満の知的障害者が夫婦で暮らし割合は約4%。身体障害者の約52%、精神障害者の約27%と比べると、特に低い。国の公的支援が乏しく、家族や周囲の理解が得づらいことなどが背景にある。

GHでの子育ても前例が少ない。金谷さんは当時、県の担当者から「GHで出産なんて聞いたことがない」と反対されたという。金谷さんはこう訴える。「誰にも相談できずに出産し、乳児院に預けることしかできない障害者も多い。そうした悲惨な現状に目を背けてはいけない。行政の公的支援がもっと必要だ」

【神内亜実】